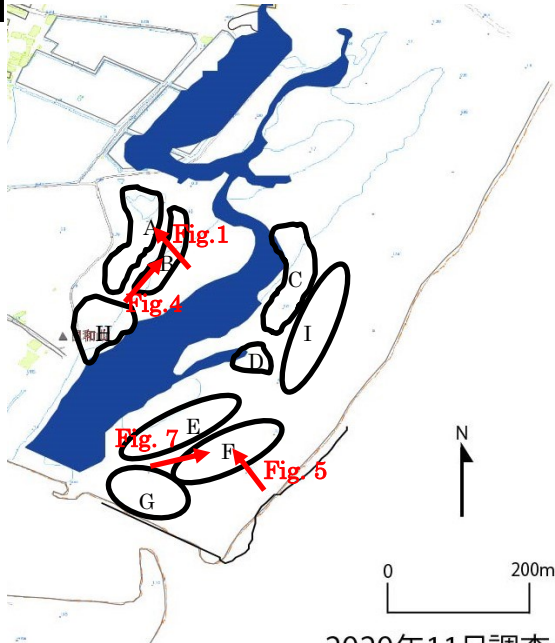


蒲生干潟の植物⑧



2020/11/10 調査エリア 2020年11月調査



Fig.1 エリアAを南東側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影



Fig.3 エリアAで撮影



Fig.4 エリアBを南西側から撮影

調査日時：2020年11月10日（火）12:00～13:45，天気：晴れ

今回の調査では、潟湖周辺の植物は全体的に茶色になり、緑色の部分は少なくなっている。エリアAを南東方面から見ると、ヨシにもほとんど緑色の葉が見られず全体的に小麦色に変化していた(Fig.1)。穂先は綿毛が大きく発達し、少し手で触れただけで綿毛がとれるほど風に飛ばされやすくなっていた(Fig.2, 3)。そのせいか種子がなくなった穂も、目立つようになった。エリアB, C, Eでは、ハマツナが群生しているが、どのエリアでも緑色の部分は見られず、すべて立ち枯れた状態になっていた(Fig.4)。



Fig.5 エリアFを南東側から撮影



Fig.6 エリアFで撮影



Fig.7 エリアFを南西側から撮影

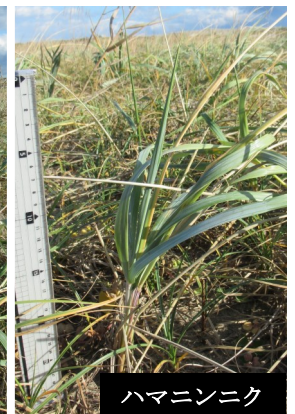


Fig.8 エリアFで撮影

エリアIやFでは緑色の葉が集まっている部分が見られた(Fig.5,7)。エリアIやFの、潟湖から離れたより乾燥した土壌ではハマエンドウが群生しており緑色の葉を広げていた(Fig.6)。また、エリアIやFの、潟湖により近い少し土壌が湿った部分ではハマニンニクが緑色の葉を伸ばしていた(Fig.8)。今回開花を確認できたのはハマニガナ(エリアF, I)とコマツヨイグサ(エリアF)のみで、ごく少数であった。